教職科目 B，保健体育科教育法Ⅱ

授業評価・授業研究報告

保健体育講座・山本万喜雄

はじめに

本教科は、中学校及び高等学校教諭教育職員免許状(保健体育)取得を志望する学生の必修科目である。ここでは、（１）保健科の目標、内容、方法など、基本的な知識を身につける。（２）教材研究や学習指導計画、学習指導法について理解を深める。（３）評価法について理解を深める。を目標にしている。受講者(３２名)のほとんどが２回生であるので、具体的かつ実践的に内容を組み立てている。

その構成は、子ども理解、教科書研究、保健の模擬授業が中心であり、後半は学生の活動を多くして展開した。本報では、最終回の授業でそれぞれが発表した総括(要約)を中心に報告することにしたい。

１　保健の授業づくり

（１）　私の考える授業づくり　　瑞希

特に大事なことは、「興味、関心を引くような教材研究」、「確かな知識の伝授」、「グループワーク」の３つである。

①　教材研究

まず、授業を作り上げていく過程において１番初めに取り組むのが、教材研究である。生徒の身近なところで考えられる補足資料をつけるとか、分かりやすい教具の使用だとか、もっと工夫をきかせた教材を考えるべきである。

②　確かな知識の伝授

間違った知識を正しいものへと導いてあげるのが、授業で最も大事な過程である。模擬授業を行って分かったのだが、教育上、適さない言い回しや、言葉というものがある。それも気をつけて、なおかつ、確かな知識を伝授することが求められるのだ。

③　グループワーク

講義の中で最も強調していたのが、このグループワークである。これをすることで、生徒たちが積極的に参加してくれるのは良いのだが、グループの子に任せて考えようとしない子が時たま出てくる。また、評価もグループ単位での評価になってしまう。だから、個人個人でワークシートに自分の意見や考え、作業させてから、グループ内で発表しあうという段階を踏めばよいのではないか。

以上、この３つの観点は、相互に関係しあって、やっと良い授業を作り上げることができるものとなるのだ。

（２）　保健の授業で大切なこと　　由美絵

私は、普段の生活の中で最も身近にある教科は保健であると考える。なぜなら、私たちは毎日命を持って、生きている。命のこと、生きることを学ぶのは保健であるからだ。教師は「教える」、生徒は「学ぶ」だけでなく、「実践・活用する」「今後の改善に生かす」ことができるような授業を作らないといけないと思う。

やる気を持たせることができるか、できないかは教師の「これまでの学び」次第だと思う。

わざわざ知っていることを、なぜ保健で教えなければいけないのか。それは、深い知識を与える

だけでなく、自分を見つめなおす機会を与えるとともに、生活に「価値」を与え、より良い生活が送れるようにするためであると考える。その「気づき」を与えるのが保健である。

２　各自の総括を聴いて(学生による評価)

このような報告を２分間スピーチという方法で発表し、その後感想を書いてもらった。次に、そのいくつかを紹介したい。

①伝えたいことを伝えるために　　耕輔

今回の授業では、他の人の「保健の授業作り」の考えを聞き、自分にはない考えを得ることができた。教科書をただ読むだけの授業では、興味がもてないつまらない授業になってしまうので、子どもに伝えたいことを伝えるために、工夫がいることを学んだ。

大切なことは、教科書を教えるのではなく、教科書で教えるということを頭に置き、授業をおこなうこと。そのためにも子どもに伝えたいところを教材の中から見抜く力を養うことが必要である。大学生のうちに教材研究の力を磨かなければならない。

②発表するのは難しい　　なつみ

今日はこの授業の最終日で、一人一人発表しました。２分間という短い時間で学んだことをまとめ、発表するのは難しかったです。保健について考えるということは、子どもについて考えるということを感じました。子どもは一人一人環境も、性格も、考え方もちがってきて、だからこそ子どもについて考えていくことが大切なんだと思います。

③実践に活かす　　アカネ

みんなのスピーチを聞いて「スピーチ考えてきたのかな？」って正直思いました。「ただ教科書を読んでるだけじゃ伝わらない」このことは模擬授業だけではなく、今の私たちの授業においても同様のことがいえるのではないでしようか。ただレポートを読むだけでは、私たちの学びは広がらないし、本人の学びも広がりません。「知っているけど、本質は分かっていない」ということの表れではないでしょうか。

今回の授業での学びは、実践に活かすことだと思っています。しかし、私たちの身近な授業で私たちが活かせていないことは、将来にも絶対マイナスなことだと思います。裏を返せば、学んだことを実践に活かせば、必ずプラスになるということです。

これを踏まえて、私自身もそうだし、私の周りもプラスになるような学習環境を自ら作っていくくらいの気持ちで、今後の学生生活を送りたいと思います。

④教育法Ⅳで会うときには　　英里香

みんなの発表を聞いて感じることは、みんな知識不足だということです。授業は受けているだけで、自分が逆の立場だったらどうなのか？と考えながら授業を聞いたことがありませんでした。今の授業がほとんど何気なく聞いている状態なのです。

次、教育法Ⅳで先生に会ったときには、教育実習が終わっています。「今回少し成長したように思う」と言ってくださったよりも、もっと大きく成長してまきお先生の授業を受けたいです。

半年ありがとうございました。

⑤どこまでも発見の連続　　せいか

みんなのまとめを聞いていて、私自身そこから発見されることがまだあった。保健というのは、どこまでも発見の連続で、探求し続ければ、底なし沼のように奥深いものだと感じました。

１５回、すごく楽しかったです。この授業の経験を今後に活かしたいと思いました。

おわりに

この授業では、講義、グループによる教科書研究、そして領域別の模擬授業と、学生の活動を重視しつつ実践力の涵養をめざして進めてきた。そこで問われたのは、教師自身の研究心、同僚性であった。

体育科教育法との協働はもちろん、附属中学校など、現場教師との連携を深めていきたいと切に願うものである。